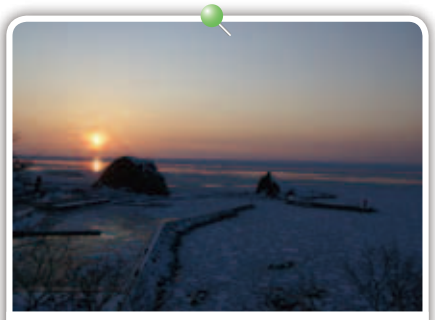
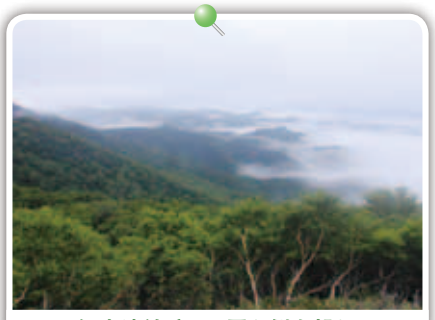
各地の森林から

季節毎にお送りする新コーナー「各地の森林から」。全国の森林の風景や林業の現場の様子などをお伝えします。今月号では、国内の世界自然遺産の森林をご紹介します。

羅臼岳周辺


知床


知床峠付近から羅臼側を望む

「知床」

知床は、海と陸の生態系が相互に関係して創られた自然が高く評価され、2005 年に世界自然遺産に登録されました。世界自然遺産区域（陸域）の９割以上が国有林野で、林野庁としても森林生態系保護地域に指定し保護を図っている原生的な森林です。シマフクロウやオジロワシ、シレトコスミレといった希少な動植物、ヒグマなどが生息しています。豊富な栄養を海にもたらす流氷が見られる南限地域であり、海には鯨類やトドをはじめ多くの海棲動物が生息しています。このうちシロザケやカラフトマスが川を遡上し、森に棲む生き物の餌となって陸の生態系と繋がっています。知床五湖の散策や知床連山の登山、クルージング等で四季を通して、厳しくも雄大な自然を感じることができます。

母島南崎から乳房山

父島小港海岸・コペペ海岸

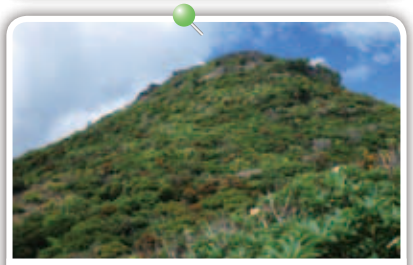
「小笠原諸島」

小笠原諸島は、過去に一度も大陸・本土と陸続きになったことがなく、独自の進化を遂げた数多くの固有種が生息・生育し、大陸とは異なる独自の生態系が形成されており、2011 年に世界自然遺産に登録されました。世界自然遺産区域（陸域）の約８割が国有林野で、植物は島々の環境に適応しながら進化し、父島や兄島では乾性低木林が、母島では湿性高木林が分布しており、希少性の高い固有種が多く存在します。

しかし、小笠原諸島の生態系は外来種の侵略に対し極めて弱く、外来種により小笠原諸島の固有の生態系が脅かされていることから、小笠原諸島の自然をよりよい形で後世に伝えるため、地元 NPO やボランティアなどとも連携しながら、アカギやモクマオウなどの外来植物の駆除に取り組んでいます。

父島・ハートロック

父島・中山峠から南島を望む


乾性低木林（兄島）

マルハチ群落

「白神山地」

白神山地は、過去に伐採などの人の影響をほとんど受けなかったブナ林が広がる地域で、原生状態のブナ林と動植物の多様性が世界的に特異な森林を形成し、1993 年に世界自然遺産に登録されました。世界自然遺産区域全域が国有林野であり、気候は、比較的標高が低いところでも年平均気温が９℃以下と低く、積雪量は４メートルに達するところもあります。こうした厳しい気象条件が、長い年月をかけて白神山地独自の自然環境を作り上げてきました。

白神山地及び周辺地域には、様々なレベルの散策コースが整備されており、一歩足を踏み入れると、圧倒的な迫力と雄大さを誇るブナの巨木が私たちを包んでくれます。風に揺れるブナの葉の音、ブナの恵みを受けて暮らしている鳥の声などを聞きながら、悠久の時間が育んだ白神山地の豊かな自然を感じてみてはいかがでしょうか。

天狗峠から向白神

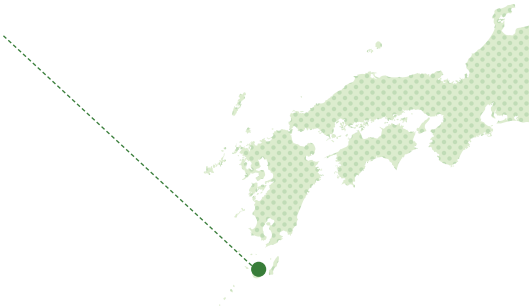
岳岱

マザーツリー

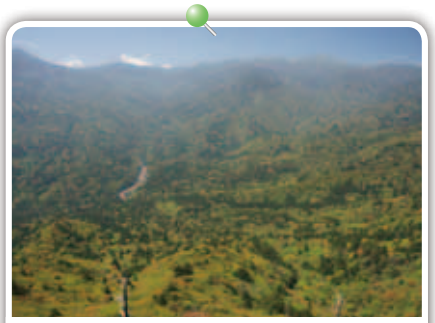
「屋久島」

屋久島は、樹齢数千年のヤクスギをはじめ、ヤクザルやヤクタネゴヨウなど多くの固有種が生息し、海岸部から中央部の山頂まで約 2,000m もの高低差があり、亜熱帯から冷温帯までの植生の典型的な垂直分布が見られるなど、特異な生態系とすぐれた自然景観を有し、1993 年に世界自然遺産に登録されました。世界自然遺産地域の９割以上を国有林野が占めています。

また、中央山岳地は、１万㎜を超える降水量があり、林芙美子が小説「浮雲」で月に 35 日雨の降るところと記しているように、非常に多くの降雨がある地域です。島内にあるヤクスギランドや白谷雲水峡などのレクリエーションの森では、木道や石畳など、苔むした森の中に散策コースが整備されています。また、巨大なヤクスギはもちろん、これからの時期は、サクラツツジやヤクシマシャクナゲの花が見ごろを迎え、多様な植生を見ることができます。

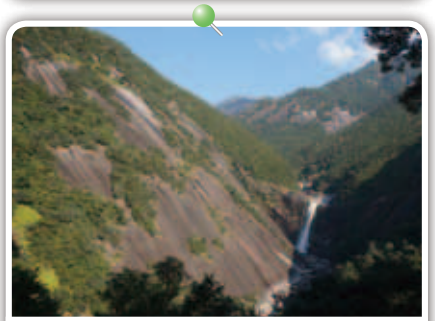


苔むす森



太鼓岩からの眺望

白谷雲水峡･奉行杉



千尋の滝

春の屋久島